

東京建築カレッジは4月6日（水）、22人の新入生を迎えました。

第27期生のみなさん、入学おめでとう！ 密度の濃い2年間の学びへようこそ！

カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！

TEL 03
(5950)
1771



新型コロナウイルスの感染拡大への対応が続く中、東京建築カレッジは第27期生を迎えました。4月6日、池袋校舎で行われた入学式は来賓の人数を大幅に減らし、派遣事業主も代表スピーチされた坂口建設（東久留米市）の坂口誠社長だけの参加となりました。しかし、新入生は元気がいっぱいです。年齢やキャリアの様々な人が、共に学ぶ中で、互いに影響しあい、成長していくことでしょう。

入学生22人の内訳は、男性20人・女性2人、高校新卒は8人（36%）です。うち工業高校建築系は4人でした。年代構成は10〜20代で13人（59%）、30〜50代の入学は5代1人・40代0人・30代8人の計9人（41%）となっています。例年に比べ30代以上が多い期になりました。

年代を問わず、コロナ禍の影響や建築の仕事への憧れなどで他業界から入職してきた人が7人います。その中には社会的地位の高い職業に就いていた高学歴者が複数いることも特徴です。時代の変化の予兆を感じます。

建築カレッジが入職のきっかけ オリエンテーションのグループ交流から



カレッジでは、グループ交流・グループ討論の進行も学びます。出席者一人ひとりを気持ち尊重しながら、与えられた時間の中でテーマに沿って話し合い、討論のまとめを報告できるテクニックを身に付けてもらうことをめざします。

入学式の日の午後のオリエンテーションでは1、2年生合同のグループ交流も行いました。自己紹介の際、入職のきっかけでカレッジが大きな役割を果たしていることがわかりました。

Aさん・経済的理由で大学進学を断念。先生に相談したらカレッジを紹介された。

Bさん・異業種で働いていたが古民家改修の仕事をしたくなった。大学を入り直すのは大変なので未経験でも受け入れてくれる工務店を探し、カレッジの職業紹介を知った。

Cさん・小さいころから大工になりたくて工業高校に。高校の先生にカレッジの魅力と就職支援の仕組みを教してもらった。

Dさん・学校に来る求人票には限りがあるので建築カレッジに応募。カレッジだと進路の選択肢が広がると思った。

親子2世代 カレッジ生に

第4期生の川村雅彦さん（光商會＝豊島区、下写真で右から二人目）は今春高校卒業した息子さん、禅さんをカレッジに入学させました。普通科の高校だったため建築の基礎をカレッジで学んでもらい、在学中に資格取得を含めた将来の目標設定させることが狙いです。

カレッジの卒業生が子どもを入学させる事例が最近目立ちます。後継者の育成の場として教育力が評価されているからです。父親の在学中のエピソードを先生から聞いたり親子関係も深まります。

恩師と記念撮影する川村さん



「第26期実習棟」を一級建築士大工が解説

6月19日(日) 江東実習場でオープンキャンパス開催

第28期生(2023年4月入学生)募集始まる
「募集要項」5月1日、公式サイトで公開

学校紹介は
こちらから



大工手道具、手刻みで「建築とは何か」感じて
体感重視の「集中授業」



1年生の
授業から

図面を読み、材の特徴を見ながら、墨付けと刻みを行います。基本的な継手や仕口の加工法を習得させます。写真は完成精度を互いに点検している様子。手道具の状態も完成度を左右します。

今、建築の現場で目立つのは、組み立て作業です。材料は工場で作られたもの。分業や効率化も進み、全体が見えにくくなっています。建築の本質や知識、技術・技能を、建築の現場だけで習得することが難しい現実があります。

大工以外の職種でも新人の育成上、これは大きな問題です。「これでは基礎が身に付かない」「現場を統括できる監督さんを育てるために大工技術の基本は学ばせたい」といった事業主の声もあり、本校では、大工手道具一式を教材として購入してもらい、その使用を通して、「建築とは何か」体感させる授業を行っています。設計や施工管理、各専門工事職で高いレベルをめざす入学生から毎年歓迎されている授業です。

算数・数学の復習授業も！

「集中授業」では、建築では欠かせない数学の復習、トレーニングも「規矩術初歩」の名称で行います。建築従事者向けの独自カリキュラムで元都立高校教員がいていねいに教えていきます。

「集中授業」9日間
木造工作実習の流れ

- ・大工手道具とは
- ・道具箱
- ・ノミ冠・裏押し
- ・鑿(のみ) 砥ぎ
- ・墨つぼ・墨差し
- ・柄(ほぞ)・柄穴
- ・蟻仕口
- ・鎌継手
- ・砥石台
- ・鉋(かんな) 仕込み

日本の気候に合う自然素材の値打ちを学ぶ
「建築仕上材料」

学科授業では、金田正夫講師(一級建築士)の「建築仕上材料」が始まりました。エアコン依存の住まいづくりを見直し、気候風土に合った自然素材の値打ちを再発見できる授業です。



「高気密・高断熱型の省エネ住宅」を科学的に批判されているのが金田講師。影響を受けるカレッジ生は少なくありません。



2年生の
授業から

2年次の最初の実技実習課題が「廻り階段」です。現場ではプレカットの組み立てが多い階段ですが、4班に分かれて、それぞれ原寸図を書き、墨付け、刻みを分担して行っています。電動工具を使うため、事前に「丸のこ等取扱作業従事者教育」を全員が受講し安全第一で授業を進めます。

「廻り階段」

原寸図の作図からスタート